

みなさんこんにちは、県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

先日、総合教育センターと合同で地震（震度6）を想定した避難訓練と救命救急講習を行いました。これまで勤務していた職場でも、年に2回程度は避難訓練や救命救急講習を実施してきました。何度訓練を行っても、思っていたように動けないことがあり、「実際に大きな地震や火事が起きた時、今日の訓練のように動けるだろうか…」という不安は消えないものです。

さて、みなさんは次の書き出しから始まる作品をご存知ですか。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくの如し。」

これは鴨長明の書いた『方丈記』です。中学か高校の古典で学習したという人も多いのではないのでしょうか。

書かれたのは平安末期。約800年もの間、日本人に読み継がれてきた作品ですが、日本初の「災害文学」とも言われており、東日本大震災以降、再び注目されています。

『方丈記』の前半のほとんどの部分が平安末期の「五大災厄」の記録にあてています。

〈平安末期の五大災厄〉

- 1 安元三（1177）年の大火（長明二十三歳）
- 2 治承四（1180）年の竜巻
- 3 治承四（1180）年の福原遷都（首都移転）
- 4 養和年間（1181～1182）頃の飢饉（台風・洪水・伝染病）
- 5 元暦二（1185）年の大地震（長明三十一歳）

数々の災害を長明は短期間の間に体験し、災害の状況を、まるで映像を見るかのようにリアルに表現しています。アニメ界の巨匠・宮崎駿さんは、「自分の作品の世界観に、『方丈記』が大きな影響を与えている」とも語っています。

こんな激しい無常と絶望を体験した長明は、次のように語っています。

「恐れの中に恐るべかりけるは、地震なりけりとこそ覚え侍りしか。」

（恐ろしいものの中でも、だんとつに恐ろしいのは、やはり地震だと痛感した。）

長明が災害の状況と、それらに直面した人々の様子をつづった目的は、単なる災害の記録としてではなく、私たちが、今、どんなところに住んでいるかを、明らかにしようとしたのです。その地域がどういう場所なのか、過去にどんな災害があったのかを知ることによって、被害の未然防止や災害が起きた時の対策を事前に検討しておくといったことが目的だったようです。

11月9日まで読書週間。普段、古典に触れる機会が少ないといった方も、学生時代に嫌というほど学習したという方も、これを機会に古典作品のページをめくってみてはいかがでしょうか。

しょうか。新しい何かを得られるかもしれません。
ちなみに、私が古典を読むときは「マンガ」から入ってました。

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆
子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/
kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★